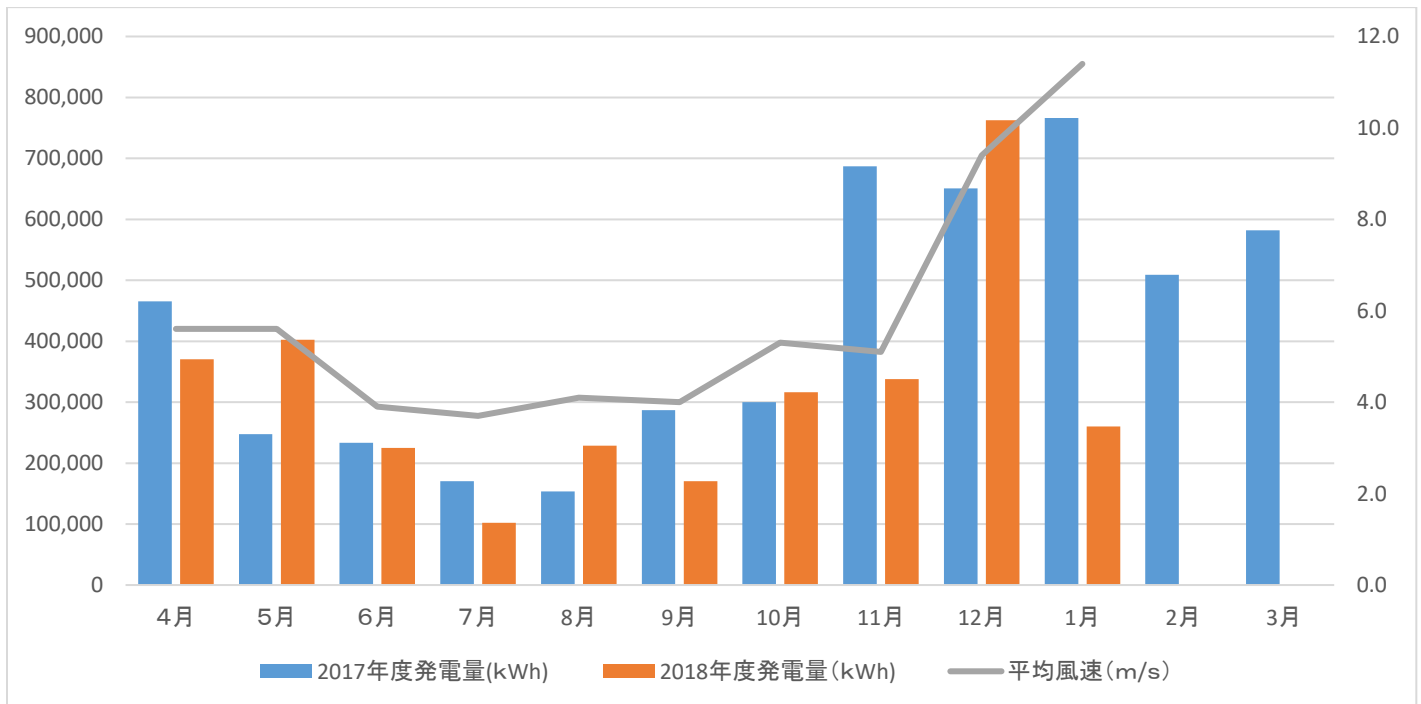


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

○ 発電実績



1月度運転状況について

- 1月8日に増速機中速軸受に軽度な損傷を確認し、部品交換までの間、風車の運転を保安停止しました。
1月8日～31日まで、稼働停止となったため、稼働率24.3%となり、発電量は前年比33.9%となりました。
- 部品の手配が付き、2月中旬以降の交換工事の目途がたった為、2月5日より再稼働しております。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	370,505	5.6	96.6
5月	402,151	5.6	92.3
6月	224,714	3.9	98.4
7月	102,149	3.7	76.2
8月	228,380	4.1	96.9
9月	170,112	4.0	96.8
10月	316,349	5.3	94.4
11月	337,943	5.1	99.9
12月	762,460	9.4	97.1
1月	260,072	11.4	24.3
2月			
3月			

理事会開催報告

2019年1月29日、2018年度第3回理事会を開催いたしました。

主な議案は、第3四半期決算報告、2018年度事業活動計画の中間まとめと2019年度事業活動方針素案、高森風力発電所事業計画2次案、保安停止と対応、にかほ市基金への拠出の変更などです。

第3四半期決算報告では、11月は風況が悪く発電量が前年の約半分となったことから、10-12月の売電売上は計画比99.2%、前年比87%でしたが、4-12月は計画比100%、前年比91%となっています。

保安停止と対応については、生活クラブ風車「夢風」は、発電機械の軸の振動を遠隔監視するセンサーを設置しており、振動増加を確認し、現地調査を行ったところ、軽微な線傷を確認した為、そのまま稼働させることは可能でしたが、部品交換工事までの間、保安停止しました。1/29時点では、部品の手配が付き、2月中旬以降に交換工事を実施する予定です。今後も、(株)市民風力発電と連携し、大きな故障を防ぐよう丁寧な保守点検を実施していきます。

生活クラブ自然エネルギー推進PJ 第2回学習会報告

2019年2月13日、生活クラブ首都圏リージョナル連帯自然エネルギー推進プロジェクト主催の2018年度第2回学習会を生活クラブ東京の生活クラブ館で行いました。

講師に、株式会社sonraku代表取締役の井筒耕平さんをお招きし、「再生可能エネルギーによる地域経済効果」をテーマにお話を伺いました。

はじめに、映画「おだやかな革命」にも登場した、岡山県西栗倉村のことをお聞きしました。

100年の森林構想をもつ、西栗倉村役場の持つオリジナリティーとして、NPOやベンチャー的なスピード感や社会課題への意識がある、住民、行政、移住者がフラットである、ということがあります。キーワードはローカルベンチャーで、西栗倉村には、森の学校(木材加工)、エコローゼ(ウナギ養殖)、ようび(ひのきの家具)、木薫(木のおもちや)、FURERU(木工)、sonraku(バイオマスエネルギー、宿泊)、ablabo(油屋)、ukiyo(帽子)、小松組(土木)、軒下図書館(パン)、nottuo(デザイン、染織)、酒うらら(酒屋)、じゅ〜く(福祉)、かどた整体などがあり、ローカルベンチャー発祥の地です。また、西栗倉ローカルベンチャーの特徴は地域資源や地域、定住にこだわらず、リソースファーストからやりたいことファーストで結果を出すということ。若者の人口が増えたことで、減少し続けてきた子供の数がV字回復をしているとのこと。

(株)sonrakuは岡山県西栗倉村、香川県豊島、神戸を拠点に事業を行っています。

事業の中身は、宿泊・お風呂事業、バイオマス事業、企画・コンサルティング事業です。西栗倉のバイオマス事業は、林業でC材となる木材を燃料とした薪ボイラーで3か所のお風呂に熱供給と、こども園への熱供給をしています。現在、役場、こども園、老人施設、小学校、中学校への地域熱供給工事を行っています。



講師:井筒耕平さん

薪ボイラー事業の課題としては、熱供給は収支がきびしい事、冬季の運用が厳しい事(需要は高いが、雪で薪が乾燥しづらい)、成長実感が得られず若者の持続的雇用が難しい事などがあるといえます。



最後に、地方のやるべきこととして、提言を頂きました。

一つは、労働生産性を高めること。そのためには、ディレクターやマネージャー的な役割の人材が必要。ハードからソフト、ソフトからハードへの歩み寄りが必要だ。二つめは、平均値から外れるべき。三つめは、毎月レベルでアップデートしつづける。行政は1年ごとのサイクルで、民間は毎月サイクル、違いはここ。

たくさんのローカルベンチャーの若者の笑顔の写真と、地域資源に拘らずにやりたいことをやるということ、地域に事業の継続は必要だが、定住に拘らないということ、など、たくさんの新しい視点を頂きました。ありがとうございました。

掛魚まつりに鱈を奉納しました

毎年、立春の2月4日に、にかほ市金浦の金浦山神社の社頭に繰り広げられる「掛魚」は、「タラまつり」「掛魚まつり」と呼ばれて全国に紹介され、奇祭のひとつに数えられています。

掛魚(かけよ)とは、漁師が氏神様にお供えする魚のことで、祭りの主役となる大タラは一匹ずつ荒縄に釣り下げられ、海上安全、豊漁を願って金浦山神社の神前に供えられます。

300年以上前、鱈漁法が伝えられ、金浦の鱈が名物とされました。漁の最盛期は1～2月で、日本海は風雪で荒れ狂い、昔は、わずかな晴の間に出漁したといわれています。こうして命がけで水揚げした鱈の一部を守護神に奉納して感謝をささげ、さらに今後の海上安全と大漁を祈願する風習が自然発生的に生まれ、祭化したといわれています。



今年、初めて、グリーンファンド秋田で鱈を奉納させていただきました。鱈を担いで金浦漁港から金浦山神社まで歩くのですが、残念ながらお祭りに参加することはできませんでした。奉納した鱈は会場で提供される鱈汁に寄付させていただきました。

後日、金浦山神社で祈願頂いたお札をいただきました。生活クラブ風車「夢風」の安全を願い事務所にお祀りさせていただきます。

生活クラブ連合会のHPで動画配信中です

生活クラブのブランドムービー:ENERGY 編に、生活クラブ風車「夢風」の建つ、芹田自治会の荒川前会長、芹田営農組合の遠藤組合長と首都圏の組合員リーダーとの交流も様子が紹介されています。「夢風をきっかけに生活クラブさんとの相互交流が生まれ、地域の活性化にもつながっていると思っています」「顔の見える交流を長く続けていければよいのかなと思っています」と荒川さんは仰います。エネルギー編では、生活クラブのエネルギーの柱である「減らす」「つくる」「使う」について、減らすではグリーンシステム、使うでは生活クラブでんきについての紹介もされています。

生活クラブ連合会のホームページからご覧ください。

<https://www.seikatsuclub.coop/about/brandmovie.html>

サステイナブルなひと、
生活クラブ

生協の食材宅配【生活クラブ】
国産、無添加、減農薬、
こだわりの安心食材を宅配します。

資料請求

Web加入手続き

インターネット注文
(eくらぶ)

|> ENGLISH |> 한국어 |

